

2020年東京五輪に向けたG空間シェアリングモビリティによる都心活性化プロジェクト

G空間活用交通マネジメント協議会

【○国立大学法人 名古屋大学、東京都台東区、愛知県豊田市、アイサンテクノロジー(株)、エポネット(株)、(株)日建設計総合研究所】

■ 事業の目的、目標、着眼点

東京都台東区のレンタサイクルと愛知県豊田市の次世代モビリティシェアリング (Ha:mo) を利用した、G空間技術（準天頂衛星の高精度測位情報と3D高精度地図情報）の実証により、多くの自治体が抱える自転車社会の問題解決と地域活性化に対応する。また、2020年東京オリンピック・パラリンピック開催と外国人観光客に対する魅力向上を目指す。

- ① 鉄道・バス乗降場→ステーション→目的施設の入り口（軒先）までをシームレスな多言語ナビゲーションサービスの開発
- ② 自転車の危険走行や自転車専用レーン走行等の注意喚起情報等ガイダンスシステムを開発
- ③ 自転車レーン，道路勾配，軒先情報を含む高精度な3D地図情報の構築
- ④ G空間で実現するレーン・マネジメント*の実証（※：レーン単位での交通マネジメント手法）
- ⑤ 高精度自転車プローブデータの施策支援検討への活用（例：交通施策のPDCA、自転車・道路施策支援）

■ 具体的な取組内容

開発するアプリの概要とシステム構成を以下に示す。

提供サービス	サービス機能項目
施設(POI)情報	<ul style="list-style-type: none"> 公共交通の乗降場，ステーション位置，観光・店舗施設の案内情報 施設の入口を示す軒先情報
自転車走行ガイダンス情報	<ul style="list-style-type: none"> 自転車レーンへの誘導ガイダンス情報 スピード超過やジグザグ走行等の危険運転に対する注意喚起情報
ルートナビゲーション情報	<ul style="list-style-type: none"> POI情報を含め，目的施設までの自転車走行ルートとデポまでの案内 道路勾配を踏まえた平坦ルート優先のナビゲーション デポから目的施設の入り口，公共交通乗降場入口までの歩行ルート案内



■ 事業終了以降の展望・取組内容

- ① 準天頂衛星対応高精度測位器をレンタサイクル等と連携することで、自転車プローブデータの蓄積や行政施策のPDCAに対する有効性を蓄積する。
- ② ナビゲーションサービスの継続性についてコミュニティサイクルの有料付帯サービスとして導入展開を検討。
- ③ 高精度3D地図情報の継続・拡大整備について、「3D東京GEOマップ」協議会を母体とし、2020年東京五輪を見据え、継続・拡大構築を検討。